

林業相談

冬囲いの取りはずしについて

問 春に庭木の冬囲いを取りはずしますが、その時期と方法などについて、お知らせください。
 (真駒内圃地 M生)

答 3月の声とともに春らしくなり、庭木も一斉に休眠から目ざめ、生育を始めます。冬の間、庭木を寒さから保護するため、荒ムシロやその他の方法で冬囲いをおこなっていた庭木も、そろそろ冬囲いを取りはずし、衣がえの時期となってきます。しかし、春だからといって、早々に冬囲いを取りはずし、そのままにしておく、思わぬ被害をうけることがありますので、その時期と方法などについて、お知らせいたします。

冬囲いを取りはずす時期

一般に春(4月に入ってから)におこないますが、北海道の場合、雪が融けても夜間の気温が下がり凍結や晩霜の恐れもありますので、安全をみきわめて、道央地帯では4月下旬～5月上旬が冬囲いを取りはずす適期です。

庭木の手入と方法

長い間、黒ずんだ雪の中に埋まっているため、庭木には煤煙などが附着し枝条が黒く汚れており、これが病害虫を誘発する原因ともなるため、冬囲いを取りはずした直後に晴天時をみはからって、庭木を水洗し煤じんを取除きます。なお、殺菌剤で庭木や土壌を消毒すると一層効果があります。

つぎに、前年に伸長した枝条の先端が寒さによって枯れ上っている庭木が多くみられますが、このままにしておく、目的以外の枝条から多くの不定芽が生じ樹形が不整形になり、花を期待する庭木の場合、花付きが悪くなるので、枯枝の部分と前年に伸長した不要枝を取除くための軽いせん定をおこなって樹形を整えます。

また、庭木は無肥料のままで越冬する 경우가多く、今年も美しい樹姿を楽しむために追肥が必要となります。肥料は市販している配合肥料が手軽で使いやすい。施肥量は庭木の大きさによっても異なりますが、樹高0.5～1.0m程度の灌木には、1～2握り(100～200g)を大まかな基準として、庭木の大小により適宜に加減して施します。施肥の方法は根元の土壌を軽く中耕し、肥料と混合して庭木に栄養をあたえると、生育も良く美しい花が期待できます。

冬囲い資材の整理

冬囲いをおこなう場合の資材は、根出竹、小巾板、小角材、小丸太、荒ムシロ、玉縄などが主なものです。よく冬囲いを取りはずしたあと、これらの資材などが飛散し庭の美観を損なう家庭も多いため、不要になった冬囲い資材は取りはずしと同時に整理して、倉庫などにしまうべきでしょう。

また、これらの資材の耐久年数は、その取り扱い方にもよりますが、荒ムシロ、玉縄で約2年、それ以外の支柱などは、4～5年程度使用できるので、次回の冬囲いに備えて保管するような心がけが大切です。

(樹芸樹木科 齋藤 品)